

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.21)

中国パビリオン

【基本設計】中国建築科学研究院 有限公司 【実施設計】株式会社 大建設



正面外観写真

【パビリオンの概要】

中国パビリオンは、2025年 大阪・関西万博の会場中心部に位置し、鉄骨造・地上2階建て、建築面積約2,400㎡、延床面積約3,800㎡の建物となっています。

外部は「中華書簡」をイメージした竹筒の外壁が延々と展開し、その上に漢字の詩や詞といった中国の伝統文学を刻み、「山水画」の世界観を取り入れることで、建築そのものが中国の深い文化を体現した「展示品」としての役割を果たしています。

内部は「書簡長巻」をコンセプトに文明の進化や文化の変遷をテーマにした6つの展示空間が展開されています。最新技術を導入したマルチメディアやインタラクティブな展示手法により、没入感のある体験を提供し、来館者を過去から未来へと導きます。

【設計概要】

中国パビリオンの設計コンセプトは「中華書簡」です。竹や漢字、書簡などの文化的シンボルを融合し、中国の伝統的な園林の空間理念や「歩くにつれて風景が変わる」や「起承転結」といった構成を取り入れています。

竹の書簡と最新デジタル技術を組み合わせ、中華文明の長い歴史と中国文化の魅力を発信。「人が自然と共に生きるコミュニティの構築 — グリーン発展の未来社会」という中国パビリオンのテーマを体現しています。

建築と展示、内部と外部を一体化し、敷地全体で統一感ある空間を構成。展示と吹抜、内と外を織り交ぜることで、限られた空間の中で様々な空間体験を生み出しています。また、物語性のある展示を通して、建築そのものがストーリーを伝える語り手となります。